

JICA 横浜 海外移住資料館

館報

平成 20 年度



はじめに

JICA横浜 海外移住資料館は、「われら新世界に参加す」を基本テーマとして、「新世界」の社会・文明造りに貢献した日本人の海外移住者の歴史と生活・体験を展示し、日本人の海外移住及び世界の日系社会の歴史を未来に継承するための諸活動を行っています。

また、日本人のみならず、日系人のために、自らのルーツである日本と移住の歴史に関する知識と理解を深める場を提供することを通じ、それぞれが多文化共生について考え、相互理解と交流を深める活動にも力を入れております。

平成20年度はブラジル日本人移民100周年にあたり、当資料館でもブラジル日本移民百周年記念協会と共催で記念写真展―「新世界に渡った日本人」―を開催するとともに、全国各地の記念写真展開催希望団体との総合調整、展示資料作成、提供を行いました。

このたび、平成20年度における積極的に展開してきた諸活動の実績をまとめた「JICA横浜 海外移住資料館 館報」（平成20年度）を発刊することになりました。当資料館が取り組んできた諸行事や諸成果をお伝えして、関係者の皆様に当資料館の活動をご理解いただければ嬉しく思います。

当資料館は今後とも我国の近代史の一部である海外移住の歴史に関する当資料館所蔵の標本・資料の整理・保存、新たな資料類の収集、公開並びに多文化共生について学習する教育の場としての教育プログラムの充実などをより統合的に進めていくこととしております。

今後とも、関連機関や研究者の皆様のご指導、ご鞭撻、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2009年6月

独立行政法人 国際協力機構
横浜国際センター 所長
海外移住資料館 館長
高 井 正 夫

目 次

1.	展示イベント等	1
2.	情報システム	6
3.	資料等情報整備	8
4.	教育普及活動	10
5.	広報活動	15
6.	運営委員会及び学術委員会	17
7.	日伯交流年ブラジル日本移民百周年記念事業関連...	20
8.	アンケート調査	24
9.	各種実績	26

1. 展示イベント等

平成 20 年度開催実績

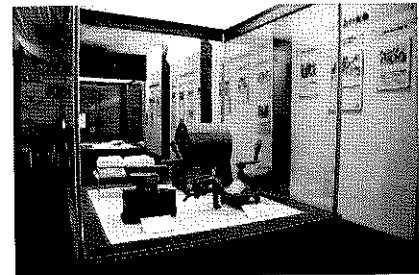
特別展示 「日伯交流年ブラジル日本移民百周年記念写真展—新世界に渡った日本人—」

期 間：3月18日（火）～6月29日（日）

共 催：独立行政法人国際協力機構
ブラジル日本移民百周年記念協会

企画・構成：JICA 横浜 海外移住資料館
ブラジル日本移民史料館

協 力：東山農場珈琲資料館、パラナ州日本移民史料館、グアタパラ農事文化体育協会、山中三郎記念パストス地域史料館、リベイラ・レジストロ日本移民記念館、北原・輪湖記念館、リンス慈善文化体育協会移民史料館、アラサツーバ日伯文化協会移民史料室、トメアスー日本人移民史料館、ペレイラ・パレット移住歴史館



開催期間中入館者総数：16,367人

概 要：1908年4月28日、ブラジルへ向けた第1回日本人集団移住者を乗せた移民船

「笠戸丸」は、約2ヶ月間におよぶ航海を経て、6月18日にブラジルのサントス港に入港した。これが、集団による日本人ブラジル移住の始まりであった。それから100年の時を経て2008年、日伯交流年関連行事の一環として、ブラジル日本移民百周年記念委員会の要請に基づいて、ブラジル日本移民史料館及び地方日系団体の資料館等から収集した日本移民の歴史を物語る写真を日本の各地で展示し、広く国民に日本移民百年の存在やその意義を知らしめる「日伯交流年 ブラジル日本移民百周年記念写真展 — 新世界に渡った日本人 —」を開催。サンパウロにあるブラジル日本移民史料館を中心に、ブラジル各地の日系団体から収集した、移民の歴史を物語る貴重な写真資料を展示。

特別展示 「ワンダーアイズ～未来につなぐ子どもたちのまなざし～」

期 間：9月17日（水）～11月24日（月）

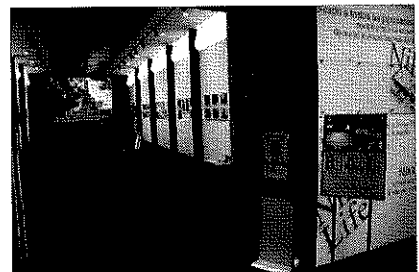
主 催：ワンダーアイズプロジェクト

後 援：ブラジル大使館、日本ブラジル中央協会

助 成：国際交流基金、アサヒビール芸術財団

協 賛：キヤノン株式会社

協 力：JICA 横浜 海外移住資料館、群馬県大泉町、群馬大学、ルジタニア会（東京外国語大学ポルトガル語科卒業生 OB・OG の会）



開催期間中入館者総数：8,134人

概要：「ワンダーアイズ」は、写真文化を通して地球のつながりを考えようという非営利のプロジェクト。2000年から国内外の子どもたちを対象に、子どもたちが写真を写して、写真展を開くプロジェクトを実施している。日本人ブラジル移住100周年にあたる今年、「日伯交流年」認定事業として、日本人移住地として知られるアマゾンのトメアスの暮らしなど、新しい世代の日系ブラジル人の子供たちが写した写真を中心に展示展開。21世紀を生きるブラジルの子供たちが自然なまなざしでとらえたブラジルと日本のドキュメントを紹介。



特別展示「NOSSAS LENTES 私たちのレンズ」

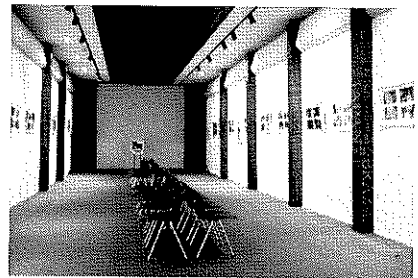
期間：12月9日（火）～12月28日（日）

主催：ブラジル・ジャーナリスト連盟、サンパウロ州ジャーナリスト労働組合

後援：ブラジル大使館、JICA 横浜

開催期間中入館者総数：2,129名

概要：日本人のブラジル移住100周年を記念して、FENAJ（ブラジル・ジャーナリスト連盟）とサンパウロ州ジャーナリスト労働組合によって企画された写真展示。著名なブラジル人のフォトジャーナリストが、さまざまな観点から捉えたブラジルの姿を映し出した写真を展示。



イベント「ミュージアム・クイズラリー よこはま 2008」

期間：7月19日（土）～8月31日（日）

概要：毎年夏休み期間中に開催。海外移住資料館を含む周辺地域の16施設で開催された。横浜開港150年にちなんだクイズを出題。

参加者数：281人

イベント「上映会：子供たちの百年 ブラジルに渡った少年少女は今」

期間：8月16日（土）～8月31日（日）

上映時間：1日3回上映（11:00～12:00・14:00～15:00・16:00～17:00）

DVD詳細：日本語版（NTSC）53分（非売品）

企画：JICA 横浜 海外移住資料館

概要 要：日本人のブラジル移住 100 周年を記念する事業の一環として、昨年度製作した DVD「子供たちの百年 ブラジルに渡った少年少女は今」の上映会を企画展示室にて実施。

参加者数：160 人

イベント「子どもアドベンチャー2008」

期間：8月20日（水）～8月21日（木）

概要 要：体験学習等の一つの機会として、市内在住・在学の児童生徒を対象に市役所をはじめとする様々な仕事を子どもたちが見学・体験することを目的に実施。当館では、「かるたで遊んでタイムスリップ！」を実施。かるたで遊び、展示場で撮った写真を葉書にしてプレゼントした。



参加者数：58 人

イベント「上映会&トークイベント：ドキュメンタリー映像作家岡村淳監督作品」

期間：9月8日（月）18：30～21：00

上映作品：『40年目のビデオレター アマゾン編』
『ブラジルの大地と人に学ぶ 生きている聖書の世界』

主催：株式会社 SARAVA

概要 要：9月2日から9月28日まで JICA 横浜で行われたイベント「宮沢和史とブラジル～これまでの100年、これからの100年」にあわせて、宮沢和史氏に影響をあたえ続けているブラジル日系社会を描いたドキュメンタリー・ビデオの上映会。当日、岡村監督自身によるトークイベントも実施。

参加者数：44 人

公開講座「連続シンポジウム～ブラジル移民をふりかえる～」

概要 要：日伯交流年記念公開講座として、～ブラジル移民をふりかえる～をテーマに連続シンポジウムを計3回開催した。

参加者総数：167 名

【第1回】

講演：『ブラジル日系研究をふりかえる』

講師：前山隆（前静岡大学教授）

パネルディスカッション：

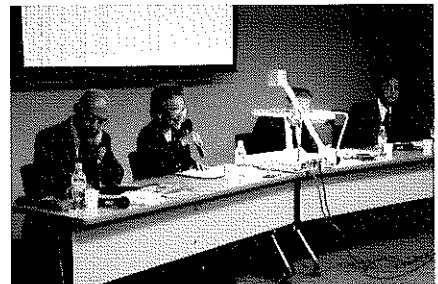
『ブラジル日系社会<現在・過去・未来>』

パネリスト：松岡秀明（淑徳大学教授）

三田千代子（上智大学教授）

前山隆（前静岡大学教授）

司会：柳田利夫（慶應義塾大学教授）



日時：2008年10月26日（日）13:00-17:00

概要：文化人類学者で「ドナ・マルガリーダ・渡辺—移民・老人福祉の五十三年」などの著者として知られる前山隆先生に、自身のブラジル日系社会についての研究をふりかえっていただいた。また、パネルディスカッションでは、さらに、同じくブラジル日系社会研究の第一人者である松岡秀明先生、三田千代子先生を招き、日系社会の過去と現在の姿から「デカセギ」による在日日系コミュニティーに至るまでを議論していただいた。



参加者数：61名

【第2回】

基調報告：『ブラジルの企業社会と日系企業』

講師：堀坂浩太郎（上智大学教授）

酒井芳彦（味の素株式会社総合企画部顧問）

二宮康史（JETRO 海外調査部中南米課課長代理）

パネルディスカッション：『日系企業の現状と展望』

司会：柳田利夫（慶應義塾大学教授）

日時：2008年11月16日（日）13:00-17:30



概要：

日本、ブラジル両国間の第一の架け橋である「人」に加え、もうひとつの担い手が「企業」である。激動する21世紀の世界経済のなかで、遠くブラジルの市場や資源、食糧に目を向ける日本企業が増えていると同時に、一方では、ブラジルの石油会社による日本進出やブラジル製中型旅客機の日本への輸出も報道されている。多人種・多民族で成り立つブラジルの企業社会はどのような世界か？ その中で日本企業はどのような活躍をしてきたのか？ そして日本人移住者・日系人と企業活動の関係は？ ブラジル経済をウオッチし続けてきた上智大学の堀坂浩太郎先生、現地で直接経営に従事されてきた味の素株式会社の酒井芳彦氏、そして、ジェトロ（日本貿易振興機構）サンパウロ・センターで産業・企業の調査活動をされてきた二宮康史氏に、それぞれのお立場からブラジルの企業社会と日系企業について基調報告をいただき、後半では、日系企業の現状と展望についてパネルディスカッション形式で議論をしていただいた。



参加者数：54名

【第3回】

講演：『日本における出移民研究』

講師：石川友紀（琉球大学名誉教授）

海外移住資料館学術研究プロジェクト報告：

『移民研究における史料』

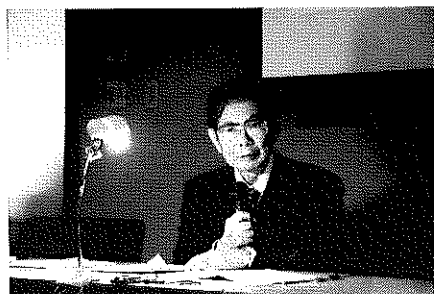
報告者：児玉正昭（前鈴峯女子短期大学学長）

原口邦紘（外交史料館編集委員）

木村健二（下関市立大学教授）

桑井輝子（白百合女子大学教授）

柳田利夫（慶応義塾大学教授）



日時：2008年12月13日（土）13:00-18:30

概要：

日本における移民研究は、地理的にも時間的にもまた方法論的にも大きな広がり多様性を持つ学問分野として日々成長を遂げつつある。その学問的な可能性をより豊かにしてゆくためにも、これまでの日本における移民研究の流れと、そこに利用されてきた史料（主として文字資料）について立ち戻って考えることが改めて求められているように思われる。

本講座では、JICA 横浜海外移住資料館における学術研究プロジェクトの一環として進められてきた移民資料研究会による国内各地における史料調査・研究の一部を報告することを通じて、移民研究のこれからについて議論を交わした。



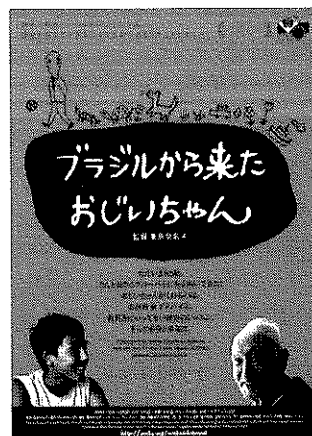
参加者数：52名

イベント「上映会&講演会：ドキュメンタリー映画『ブラジルから来たおじいちゃん』

期 間：2月28日（土）14:00~16:10

主 催：JICA 横浜 海外移住資料館

概 要：映画の主人公は、19歳のときに単身ブラジルに移住し、言葉も習慣も異なるブラジルの地で苦労を重ねてきた「おじいちゃん」こと紺野堅一さん。本作品は紺野さんの旅に同行し、在日ブラジル人を取り巻きさまざまな現実を写し出すと共に、自らも「デカセギのつもり」でブラジルに渡った主人公が、在日日系人たちの姿を通じて自分自身の人生を振り返るドキュメンタリー映画である。映画上映に先立ち、栗原監督による講演会も行った。



参加者数：135名

2. 情報システム

1) 情報展示ネットワークプロジェクト（情報展示）コンテンツ拡充

(1) FANAコンテンツ「アルゼンチン日本人移民史」新規作成および外部公開

在亜日系団体連合会（FANA）のサイトについて、コンテンツの校正作業及びページデザインの検討を現地団体担当者とともにいった。一般公開用コンテンツの校正作業が終了。平成 21 年 4 月一般公開予定。

概要：アルゼンチンに日本人定着移民が入植してから 2006 年で 120 年目を迎えた。世代交代が進む中、先駆者の語り、体験談、資料など失われていく現在、日系の歴史を若い世代の人たちが読み継ぎ、アイデンティティを喪失しないようにするため、総合的な移民史刊行が急務であった。在亜日系団体連合会は、この移民の実像を語り継いでいくために移民史編纂を開始し、2006 年 9 月に約 6 年間の歳月を経て、「アルゼンチン日本人移民史戦前・戦後編（それぞれ日本語版・スペイン語版）計 4 巻が完成した。本サイトは、同移民史の内容をもとに web コンテンツとして公開するもの。

<http://dms-fana.eg.jomm.jp/>



(2) 広島市デジタル移民博物館コンテンツの追加

広島市デジタル移民博物館のサイトについて、広島市市民局からのデータに基づいてコンテンツ追加入力をを行った（新規追加 14 件）

<http://dms-hiroshima.eg.jomm.jp/>

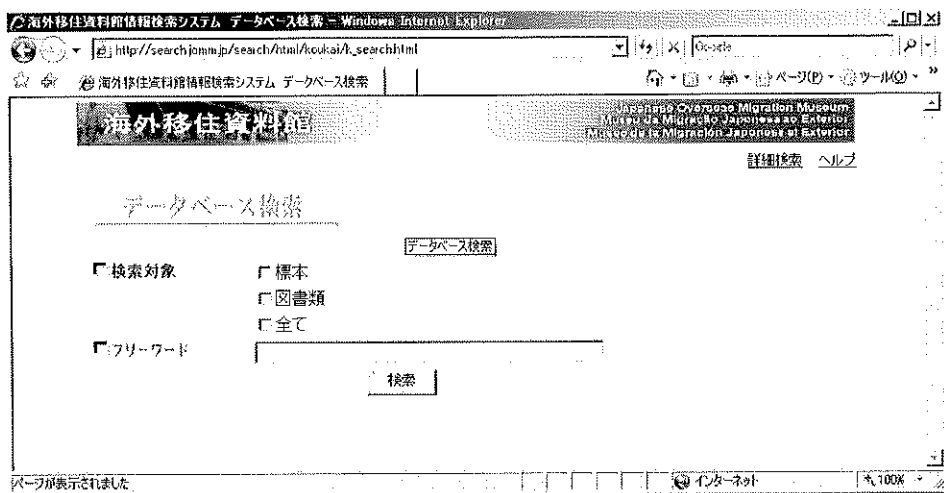


2) 情報検索システム

(1) 情報検索システム運用

平成 20 年 6 月、サーバー機器等のリプレースに伴い新規情報検索システムとしてリニューアル公開を行った。図書資料室（海外移住）で実施される各種レファレンスサービスと連携し、資料館の所蔵する資料について情報を整備し、情報検索システムを通じて館内、館外へ検索サービスを提供した。平成 21 年 3 月末時点登録数：36,798 件（うち図書類：34,896 件、標本類：1,902 件）。

<http://search.jomm.jp/>



(2) シソーラスプロジェクト

情報検索システムでの検索効率向上を目的とし、海外移住に特化した類義語辞典の充実を図った。キーワードリストから類義語のグループを作成し、随時情報検索システムに投入した。平成 21 年 3 月末時点登録数：33,797 グループ (202,172 語句、一般的な読み替え語句含む)。

3) 海外移住資料館 web ページ新規コンテンツ (キッズコーナー) の製作

児童生徒向けコンテンツとして、キッズコーナーコンテンツ『モルフィーちゃんの移民学習コーナー～親子でまなべる海外移住の歴史～』を製作した。内容は以下のゲーム 2 種類、3 件。平成 21 年度上期に一般公開予定。

ゲーム①：移民の歴史クイズ

1. 漢字問題：国名の漢字表記から国名を当てるゲーム
2. ビジュアル問題：画像から何に使われ方などを当てるゲーム

ゲーム②：移民カルタ

既存の移民カルタの内容をゲーム化したもの



3. 資料等情報整備

1) 資料の受入・収集

海外移住に関連する図書、標本等各種資料を寄贈、購入、取得等の方法で収集を行った。平成 20 年度末時点での登録総件数は約 36,946 件。

	第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期	第 4 四半期	年度計	登録累計
寄 贈	20	50	66	80	216	33,845
購 入	3	6	33	1,629	1,671	34,010
取 得	73	88	943	177	1,281	35,044
受入点数計	96	144	1,042	1,886	3,168	36,946

※1 第 3 四半期の取得資料のうち、751 件は JICA 本部からの移管分。

※2 第 4 四半期の購入資料のうち、1,563 件は過去に購入されたマイクロフィルムの登録によるもの。

2) 証言映像収集

平成 21 年に入植 80 周年を迎えるアマゾン移民について、第 1 回アマゾン移民及び日本高等拓殖学校生他の証言映像資料を製作した（第 1 回移民 5 名、第 2 回移民 1 名、第 12 回移民 1 名、高拓生 4 回生 1 名、同 3 回生未亡人 1 名、同 3 回生長男、計 10 名）。また証言映像を素材にドキュメンタリー作品として DVD を製作した。

3) 資料の整理

① 移住申込書整理作業

旧海外移住センター所蔵移住申込書について、柳田学術委員のプロジェクトとして同委員の指導の下、「解体・ファイリング」、「データシート記入・ファイル」、「スキャン」、「ファイル保管」の各整理作業を行った。

移住申込書整理	第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期	第 4 四半期	年度計
ファイル解体	743	699	377	1,384	3,203
データシート作成	766	699	377	1,384	3,226
挿入作業	766	699	377	1,384	3,226
データシート記入	706	746	440	1,283	3,178
スキャン(件数)	740	1,425	895	2,810	5,870
スキャン (画像ファイル数)	8,573	9,964	6,875	12,609	38,021

② 未整理資料の登録および組織化

ビデオテープの形式で所蔵されている未整理映像資料を対象に、整理作業を実施。データベース登録を行った（490 件）。その後、資料にラベル貼付後、情報処理室内キャビネットに配置した。

【ワークシート】

当館を利用して、学習指導をされる先生方の授業活動の参考のために作成したもの。展示場において、海外移住の歴史や移住者・日系人の生活について展示ガイドの解説を受けながら、海外移住に関するトピックについて自ら考え、記入する記述式のもの、または展示解説を受けながら各質問に答えるクイズ式のものがある。

【アウトリーチ教材（子ども向けガイドビデオ・トランクキット）の制作】

教育プログラム用新規ツールとして、ガイドビデオ及びトランクキットを製作した。製作にあたっては、外部有識者を交えて作業打ち合わせを実施。森茂岳雄氏（中央大学教授、学術委員）、中山京子氏（京都ノートルダム女子大学講師）より意見を伺い制作した。

ガイドビデオについては、広報用ビデオの子ども向けではなく、教材として教育現場で使用してもらえるようなものにするという趣旨のもと、以下の2本を制作。

- ①『海外移住資料館へようこそ』：概要説明用ツールとして、ロケーション、施設概要、展示概要等を紹介。
- ②『夢と希望を運んだ船』：海外移住資料館便りバックナンバー内「資料探検隊」コーナーの内容をもとにシナリオを作成し、所蔵映像資料を使用した。

トランクキットについては、『学習活動の手引き』に掲載されている、「活動1：海を渡る日系人」及び「活動2：語り継がれてきたニッポン」に基づいて行われる授業を想定したツールを製作。貸出時にはトランクに詰められた状態で発送する。



2) 教育プログラムの実施

教育機関の団体入館者を主な対象として、ガイダンス（概要説明）、ワークシートを使用したプログラム、質問事項への対応等、教育プログラムを実施した。計87件、3,753名。主な実施団体は以下の通り。

（第1四半期）群馬県立女子大学、横浜市立下北浦中学校他、24件、984名。

（第2四半期）聖セシリア女子中学校、神奈川県立緑ヶ丘高等学校、横浜山手女子中学校他、24件、795名。

（第3四半期）クラーク記念高校、創価女子短期大学、広島県立広高校他、25件、1,531名。

（第4四半期）多摩大学、横浜市領家中学校、県立神奈川工業高校他、14件、468名。

【プログラム例① 中学生向け（90分）】

- (1) プログラム説明
- (2) 移民と日系社会について解説
- (3) 海外移住資料館の説明（以上、30分）

(4) 資料館見学 (60分)

展示場内を解説つきで見学。

【プログラム例② 高校生向け (150分)】

- (1) グループ作業 (4グループ各6名) (40分)
移住・移民についてのイメージ共有
グループごとに取りまとめ、各代表が発表
- (2) 移民カルタで展示を理解 (40分)
グループ単位で実施
- (3) 定点解説キットを活用した展示案内 (30分)
- (4) 移住・移民に関するイメージの変化をグループごと確認、各代表発表 (40分)



3) 学校訪問

教育機関の団体誘致を促進することを目的とし、神奈川県内を中心とした学校及び旅行代理店等への訪問を実施。海外移住資料館を含めた JICA 横浜で実施されている各種プログラムの説明を行い、教育プログラム及び来館を想定した場合のリクエスト、アドバイスなどを伺った。訪問先は計 36 件。

4) ボランティア管理運営

常設展示内での展示案内を中心とした役割を目的とし、ボランティア新規募集を実施。新たに 28 名のボランティアが新規登録された。平成 20 年度末時点での登録総数は 41 名 (展示案内ボランティア 32 名、イベントサポートボランティア 24 名)。また、ボランティアのスキルアップを目的とした研修及び連絡会議等を実施した。

(1) 展示解説要因の配置

- 第 1 四半期：214 人配置 (77 開館日、平均 2.7 人配置)
- 第 2 四半期：197 人配置 (71 開館日、平均 2.8 人配置)
- 第 3 四半期：195 人配置 (74 開館日、平均 2.6 人配置)
- 第 4 四半期：195 人配置 (74 開館日、平均 2.5 人配置)

(2) ボランティア研修会等の実施

【第 1 回ボランティア研修会】

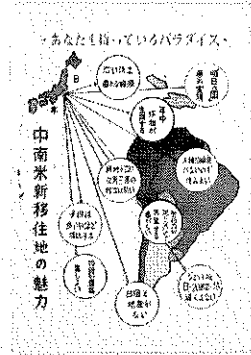
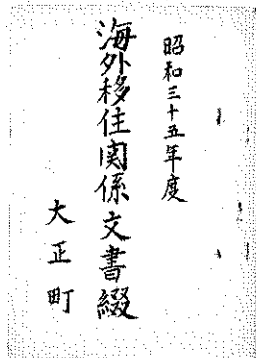
- 日時：9 月 24 日、26 日
- 場所：JICA 横浜 セミナールーム
- 参加者：12 名
- 概要：定点解説キット使用状況の確認。展示案内、解説状況の確認。

【第 2 回ボランティア研修会】

- 日時：11 月 8 日
- 場所：JICA 横浜 海外移住資料館 常設展示室

③四万十町所蔵移住関連資料

四万十町の所蔵する移住関連資料について、昨年度実施した調査にもとづき、当該資料をマイクロフィルム化することを目的とし、資料を借用した。撮影作業は10月末終了。マイクロフィルム化する際、同時に画像データ化も行い、同データを海外移住資料館所蔵資料とする。作業実施数は約8,000コマ。借用資料及び画像データは、2009年5月に返却予定。



④中南米移住地写真集画像データ整備

中南米移住地写真集掲載画像データについて、様々な借用のニーズに対応することを目的として、150dpi、300dpi、600dpi、1200dpiの4段階の画質で画像データを整備した(各画質画像数:240件)。これらの画像にはすべて電子透かしデータを埋め込んだ。

4. 教育普及活動

1) 教育プログラムの概要

当館は、日系移民に関する資料の収集、保存、展示、研究のほか、設立趣旨にあるように移住者たちの足跡や役割について多くの人々に伝え、理解を深めてもらいたいと考えている。また、とくに若い世代の人々に多文化共生社会を生きる一員として、あるいは開発教育の視点からも、一人ひとりが移住者からのメッセージを受け止めてもらいたいとの思いから、開館当初より、市民や子どもたちへの教育・普及活動に積極的に取り組んできている。

現在、日本においても外国から多くの人々が移り住み、多文化社会が進展してきており、「多文化共生」が教育分野においても重要な課題となってきた。そこでそのような課題に応え、教育関係者の役に立てていただこうと、当館を活用した各種学習プログラムを開発している。内容は、「学習活動の手引き」、カルタや紙芝居、定点解説キットといった教材、ワークシート、館内ガイドを担うボランティアプログラムからなる。

【学習活動の手引き】

この手引きには、移民について学ぶことの意義が記され、その意義に沿った、海外移住資料館の展示および各種教材を活用したいくつかの授業構想が含まれている。学校の先生方はもとより、NGO/NPO 関係の方々の授業づくりやワークショップの際の参考として利用できる。

【移民カルタ】

日本人の海外移住の歴史、移住者の生活や心情、日本に住む日系人の生活や思いなど、子どもたちに知って欲しい移民に関するさまざまな事柄を、遊びを通して楽しみながら学ぶことができる。

【紙芝居】

絵や写真、そしてわかりやすい言葉で書かれた物語を通じ、移住者の歴史的経験や心情、日本に暮らす日系人の生活や思いを共感的に理解することができる。全4種類。

今年度はそのうちの一つ「海を渡った日本人」を、英語、スペイン語、ポルトガル語に翻訳した。

【定点解説キット】

日本からの移住者が運んだトランクを再現したもの、当時の移住先国での暮らしを紹介するものなど、10のキットがある。直接体験を通して展示をより実感して理解することが可能となる。

- ① サトウキビ畑の生活・仕事（麦わら帽子、手ぬぐい地の帽子、軍手、写真パネル等）
- ② ミックスプレート（写真パネル）
- ③ スーツケース（写真カード入りの小箱、トランク等）
- ④ 移住物語（写真アルバム、複製のパスポート）
- ⑤ 花と製品あてゲーム（圧縮した綿、4つの缶からなる「香りの箱」等）
- ⑥ 農作業具（写真パネル）
- ⑦ 日系商店・萬屋（萬屋の品揃えアルバム、エプロン等）
- ⑧ 日系人の食卓（写真アルバム）
- ⑨ イグアス（空撮写真、アルバム等）
- ⑩ 宝さがし（中高生向き写真カード、ゾーンマップ）

講師：三木美裕氏（米国在住、カナダ国立博物館客員学芸員。定点解説キット監修者）

参加者：9名

概要：九州国立博物館（福岡）、パシフィック・サイセンス・センター（シアトル）、アジア美術館（サンフランシスコ）、地下鉄博物館（ニューヨーク）、トヨタ博物館（名古屋）などのギャラリーの写真を用いながら、接客事例を検討。特に学校からのグループへの対応、おとなと子どもの目線の高さの違い、ギャラリー空間全体を見回した使い方などを考察した。また、常設展示にて定点解説キットを実際に使用しながら、事例検討を実施した。



【ボランティア連絡会議】

日時：1月13日

場所：JICA 横浜 会議室1

参加者：13名（展示案内ボランティア12名及び元展示案内ボランティア1名）

概要：JICAより業務資料整理方針等の説明等

【第3回ボランティア研修会】

日時：3月19日

場所：平塚市博物館

参加者：9名

概要：同博物館ボランティアとの意見交換会を開催。また、実際に来館者の立場で展示案内を受けた。

(3) 新規ボランティア募集

9月下旬より新規ボランティア募集を開始し、11月8日（第1回）、12月7日（第2回）及び1月18日（第3回）にボランティア登録希望者向け説明会を実施した。登録希望者数45名のうち、参加者は計28名（第1回9名、第2回10名、第3回9名）。参加者は全てボランティア登録となり、1月末に登録完了のお知らせを送付した。説明会未参加の17名については次年度に別途対応予定。

登録した新規ボランティア28名を対象として、2月7日（第1回）及び3月7日（第2回）にボランティア講習会を実施した。未受講者なし。また、サポートボランティア活動として、上映会イベント開催時（2月28日）会場設営及び会場案内の活動を行った。参加者は9名。

(4) ボランティアユニフォームの新調

展示案内ボランティア用のユニフォームを新調した。



5) 博物館実習生の受入

日本大学通信教育部より依頼のあった博物館実習生を2名受入れ、8月10日（日）から8月15日（金）までの5日間実習を行った。実習の内容は以下の通り。

- 8月10日（日）：オリエンテーション、バックヤード見学、作業実習（資料整理）
- 8月11日（月）：作業実習（資料整理）、座学（海外移住の歴史）
- 8月12日（火）：作業実習（資料整理）、座学（資料室業務）
- 8月13日（水）：座学（常設展示）、座学（教育プログラム）、作業実習（資料整理）
- 8月14日（木）：座学（情報システム）
- 8月15日（金）：作業実習（情報システム）、総括

5. 広報活動

1) 広報紙「海外移住資料館だより」発行

海外移住資料館広報紙として、「海外移住資料館だより」を年4回発行。巻頭インタビューでは海外移住に関わりの深い著名人を取りあげ、資料探検隊のコーナーでは毎回テーマを設定し、海外移住資料館の展示及び所蔵資料等を紹介。発行部数 10,000 部。主な頒布先は、都道府県国際交流課及び国際課、各国大使館、図書館、博物館、神奈川県立高校、国際教育研究協議会加盟校、横浜市教育委員会、川崎市内小中学校、等約 2,000 件。その他、常設展示スペース等で随時配布。

No.	発行	巻頭インタビュー	資料館探検隊
12	2008 年 6 月	ラモス瑠偉	祝！ブラジル日本人移住 100 周年 ジャポネース・ガランチード！～日本人という名の信頼を築き上げた移住者たち～
13	2008 年 9 月	由紀さおり	しなやかに強く、そしてたくましく ～女性が支えた移住地の暮らし～
14	2008 年 12 月	田中マルクス闘莉王	スポーツがつないだ日系社会 ～受け継がれる日本の心～
15	2009 年 3 月	アルベルト城間	戦争と移住者 ～1942 年・アメリカ～

No. 12

No. 13



No. 14



No. 15

2) 一般広報

【横浜コンベンションビューローとの連携】

海外移住資料館の存在を広く一般にアピールするための一般広報として、横浜コンベンションビューローと連携し、地図「ようこそ横浜へ」に広告を掲載。年間 20 万部が、横浜コンベンションビューローを通じて JR 駅構内等で配布されている。一般広報としてリーフレット「学習プログラムのご案内」を増刷した (10,000 部)。

【ダイレクトメールの送付】

今期アンケート等によって収集されたダイレクトメール希望者及び各種媒体等登録件数は

- 第 1 四半期：78 件 (897 件)
- 第 2 四半期：127 件 (1,024 件)
- 第 3 四半期：69 件 (1,093 件)
- 第 4 四半期：41 件 (1,134 件) となった。

3) 開催広報

展示イベント等について、広報素材作成と頒布、表示類の作成、プレスリリースの配信等、適宜開催広報を行った (NHK 横浜局, TBS ラジオ, TVK, 神奈川新聞, 県政記者クラブ, 横浜市政記者室, 朝日新聞マリオン編集部, 各種イベント広報 web サイト等 19 媒体)。

また近隣商業施設と連携し、資料館での特別展示告知と横浜ワールドポーターズのゴールデンウィーク期間中ステージイベント告知を相互に実施することで、特別展示の開催広報を行った。5 月 3 日のステージは海外移住資料館での写真展連動企画として、ブラジル音楽のバンド演奏を 2 ステージ行い、各ステージ開演前に写真展示の告知を行う時間を設けた。

その他開催広報として、特別展示「ペルーへの日本人移住 110 周年/日本へのペルー人移住 20 周年 徳光ゆかり写真展「BON(盆)」の開催広報を実施した。横浜市議会記者クラブ、神奈川県政記者クラブ、各種イベント情報 web サイト等 19 件。ダイレクトメール及び E-Mail にて 1,134 件。

6. 運営委員会及び学術委員会

1) 運営委員会

海外移住資料館の運営方針、事業計画、学術事項等運営に関する重要事項について、専門的な見地から議論、検討することを目的とし、運営委員会を設置。平成 20 年度は開催実績なし。

【運営委員】平成 20 年度運営委員

運営委員長	高井正夫	JICA 横浜所長
学術委員長	飯野正子	津田塾大学学長
委員	中牧弘允	国立民族学博物館教授
	杉下恒夫	茨城大学教授
	山本匡	東京工業大学大学院特別研究員
	糸井輝子	白百合女子大学教授
	佐渡島志郎	JICA 総務部部長
	蔵本文吉	JICA 中南米部部長
	吉田 丘	JICA 国内事業部部長

2) 学術委員会

海外移住資料館における学術研究に係る企画・実施協議・評価・交流を行うことを目的として、平成 18 年度に海外移住資料館学術委員会を設置した。同委員会は、JICA 横浜所長、JICA 横浜業務第二課課長及び学識経験者により構成される。

【学術委員会開催】

(平成 20 年度)

- 第 1 回学術委員会 (5 月 8 日)
- 第 2 回学術委員会 (9 月 27 日)
- 第 3 回学術委員会 (12 月 12 日)
- 第 4 回学術委員会 (3 月 2 日)

【学術委員 (JICA 横浜)】

学術委員長	飯野正子	津田塾大学学長、海外移住資料館運営委員
委員	石川友紀	琉球大学名誉教授
	糸井輝子	白百合女子大学教授 海外移住資料館運営委員
	島田法子	日本女子大学教授
	中牧弘允	国立民族学博物館教授、海外移住資料館運営委員
	森茂岳雄	中央大学教授
	柳田利夫	慶応義塾大学教授
	山本 匡	東京工業大学大学院特別研究員、海外移住資料館運営委員
	高井正夫	JICA 横浜所長
	佐藤洋史	JICA 横浜業務第二課課長

3) 学術研究プロジェクト

学術委員会において企画、検討された学術研究プロジェクトを実施した。研究期間は3年間（平成20年度まで）とし、平成18年度より以下の4プロジェクトを実施した。

①JICA アーカイブズ・プロジェクト（移民史料研究会・JICA 所蔵資料研究会）

<移民史料研究会> 国・地方の図書館・文書館・資（史）料館等に所蔵されている移民資料を対象とし、資料所蔵状況を把握したうえで、その活用について検討する。

<JICA 所蔵資料研究会> JICA（海協連・移住事業団・琉球政府等）を通じて実施されてきた戦後海外移住に関わる海外移住資料館所蔵の基礎資料を蒐集、整理、保管し、公開するためのアーカイブとしての機能を充実させること目的とする。

②研究調査プロジェクト「二つの国の絆を結んで：『移民』の日本への貢献を探る」

第二次大戦後の日本復興時に焦点を絞り、国際協力という視点から移民した人々の「母国」への貢献に関して調査し、考察する。

③研究調査プロジェクト「海を渡った花嫁たち — 日本人女性移民の研究」

ジェンダーをキーワードにして、日本人移民のコミュニティー形成、エスニック文化形成等を再考察し、さらに北米、ハワイ、南米へ渡った日本人女性移民を取り上げ、その類似性や差異性に着目し、その意義について考察する。

④海外移住資料館を活用した学習支援プログラムと教材の開発

日系移民学習のための教材（移民カルタ・紙芝居）及び「学習の手引き」の開発（平成16年度）に続き、トランクキット型のアウトリーチ教材の開発。

4) 研究紀要の発行

海外移住資料館で行われた前述学術研究の成果として、研究紀要第3号を発行した（2009年3月発行）。

研究紀要第3号

【論文】

日本における出移民研究史概観 —1990年代以降—

琉球大学名誉教授 石川友紀

在アメリカ日本語新聞と「ララ」

—シアトルの『北米毎日』による日本救済報道 1946～1947—

東洋大学准教授 水野剛也

Nisei Interpreters/Translations of the U.S. Military

武蔵野美術大学専任講師 小澤智子

【研究ノート】

日系アメリカ人と日本との絆 —MISとして占領下の日本に駐留した二世—

日本女子大学非常勤講師 増田直子

【資料紹介】

「写真花嫁」たちのオーラル・ヒストリー

—カリフォルニア州立大学サクラメント校一世オーラル・ヒストリー・プロジェクトより—

名古屋外国語大学非常勤講師 柳澤幾美

【資料翻刻】

「農場日誌」を通じて見たサンパウロ州護憲革命運動

—カンピーナス東山農場所蔵「農場日誌」の紹介—

慶應義塾大学教授 柳田利夫

5) 館報の発行

平成 17 年度から平成 19 年度の業務実績をとりまとめ、館報を製作した。500 部印刷し、配布計画に基づき関係機関等 162 カ所へ配布した。

7. 日伯交流年ブラジル日本移民百周年記念事業関連

1) パネル製作・貸出—「日伯交流年ブラジル日本移民百周年記念写真展」

—新世界に渡った日本人—

独立行政法人国際協力機構とブラジル日本移民百周年記念協会と共催の写真展は JICA 横浜海外移住資料館とブラジル日本移民史料館の共同企画により、平成 20 年 2 月 1 日から同年 12 月 31 日まで全国各地で実施した。貸出用パネルとして大規模展示用（50 枚）、中規模展示用（30 枚）、小規模展示用（20 枚）、大中小あわせて 14 セットを制作、運用した。広報素材としてのチラシ、ポスターには、各開催地に掲載内容を聴取、その内容を掲載したレイアウト案の作成、校正、製作、送付作業を行った

パネル展示の際に活用するための映像資料として、ブラジル日本移民史料館より提供された映像資料を DVD 化し各開催地に貸出を行った。また、広報素材制作からパネルの発送、返却までの一連の作業を効率化するためにデータベースを作成し、作業管理を行った。申請総件数は 103 件、開催場所総数は 105 ヶ所（一申請で複数箇所開催あり）。入場者に実績を概算した場合、約 44 万人が写真展示を観覧した。



【開催実施一覧】

(第 1 四半期 開催件数：28 件)

- 4 月 1 日－14 日：鶴見区役所 1 階区民ホール（神奈川県横浜市）
- 4 月 4 日－18 日：JICA 二本松 広報展示室（福島県二本松市）
- 4 月 8 日：とかちプラザ（北海道帯広市）
- 4 月 8 日－30 日：群馬県庁県民ホール（群馬県前橋市）・イオンモール・太田市役所
- 4 月 11 日：JICA 本部
- 4 月 14 日－27 日：JICA 筑波 ロビー（茨城県つくば市）
- 4 月 17 日－5 月 6 日：ツインリンクもてぎ（栃木県芳賀郡）
- 4 月 24 日：日本ブラジル交流年・日本人ブラジル移住百周年記念式典
- 4 月 25 日－5 月 6 日：旧日本銀行広島支店（広島県広島市）
- 4 月 26 日：亀岡市交流会館（京都府亀岡市）
- 5 月 9 日－21 日：JICA 地球ひろば（東京都渋谷区）
- 5 月 12 日－23 日：亀岡市役所（京都府亀岡市）
- 5 月 16 日－29 日：ひろしま国際プラザ（広島県東広島市）
- 5 月 26 日－6 月 13 日：豊田市役所南庁舎 1 階ロビー（愛知県豊橋市）
- 5 月 26 日－5 月 30 日：沖縄市役所（沖縄県沖縄市）
- 5 月 20 日－6 月 30 日：JICA 帯広（北海道帯広市）
- 6 月 1 日－30 日：熊本市国際交流会館（熊本県熊本市）
- 6 月 1 日－30 日：浦安市国際センター（埼玉県浦安市）

6月2日-6日：湖西市役所（静岡県湖西市）
6月3日-29日：沖縄県立博物館・美術館（沖縄県那覇市）
6月7日-28日：とちぎ国際交流センター（栃木県宇都宮市）
6月8日：ハートフルスクエアG（岐阜県岐阜市）
6月8日-27日：飯田人形劇場・飯田市りんご並木（歩行者天国ブース）・JICA 駒ヶ根訓練所（長野県）
6月14日：トヨタスタジアム（愛知県豊田市）
6月17日-24日：いわて県民情報交流センター（アイーナ）（岩手県盛岡市）
6月18日-24日：ガガエイト（宮崎県宮崎市）
6月21日：小瀬スポーツ公園補助競技場（山梨県甲府市）
6月22日：山梨学院大学（山梨県甲府市）

（第2四半期 開催件数：40件）

7月1日-16日：西原町立図書館（沖縄県中頭郡）
7月5日-31日：JICA九州 展示スペース（福岡県北九州市）
7月7日-13日：北海道庁道民ホール（北海道札幌市）
7月18日：火の君総合文化センター展示場（熊本県下益城郡）
7月19日-20日：大宮ソニックシティ（埼玉県大宮市）
7月19日-20日：美濃加茂市文化会館（岐阜県美濃加茂市）
7月20日：中央市立田富市民体育館（山形県中央市）
7月21日-27日：鳥取県立県民文化会館（鳥取県鳥取市）
7月23日-7月31日：茨城県庁11階アトリウム（茨城県水戸市）
7月26日-8月28日：（財）新潟県国際交流協会交流プラザ（新潟県新潟市）
7月30日-8月5日：ショッピングセンター ファボーレ（富山県富山市）
8月2日-8月3日：ラポルトすず（石川県珠洲市）
8月4日-8日：浜松市役所（静岡県浜松市）
8月7日-13日：イオンモール高岡（富山県高岡市）
8月7日-19日：埼玉県立熊谷図書館（埼玉県熊谷市）
8月10日：土浦市神立公園（茨城県土浦市）
8月11日-8月22日：浜松南区役所ほか区役所（静岡県浜松市）
8月12日-31日：大泉文化むら（群馬県邑楽郡）
8月17日：高岡市竹平記念体育館（富山県高岡市）
8月20日-9月20日：（財）滋賀県国際協会（滋賀県大津市）
8月21日-31日：袋井市役所2階市民ギャラリー（静岡県袋井市）
8月23日-31日：霞城セントラル1階アトリウム（山形県山形市）
8月26日-9月8日：帯広市立図書館（北海道帯広市）
8月25日-9月21日：長岡市国際交流センター「地球広場」（新潟県長岡市）
8月31日：パティオ池鯉鮒（愛知県知立市）
9月1日-7日：山口県庁ロビー（山口県山口市）
9月8日-12日：周南市役所ロビー（山口県周南市）
9月11日-17日：上田市中央公民館（長野県上田市）
9月12日-9月26日：長野県庁1階ロビー（長野県長野市）
9月13日-20日：都筑多文化・青少年交流プラザ（神奈川県横浜市の）
9月13日-23日：川崎市国際交流センター（神奈川県川崎市）

- 9月13日－11月16日：高知市立自由民権記念館（高知県高知市）
- 9月14日：久屋大通り公園エンゼル広場（愛知県名古屋市）
- 9月16日－19日：下関市役所ロビー（山口県下関市）
- 9月16日－10月31日：あいち国際プラザ交流ひろば（愛知県名古屋市）
- 9月23日－28日：篠山市民センター（兵庫県篠山市）
- 9月23日－30日：福田屋百貨店（栃木県真岡市）
- 9月24日－30日：岩国市役所ロビー（山口県岩国市）
- 9月28日：高岡商工ビル2F（富山県高岡市）
- 9月29日－11月4日：香川国際会館（アイパル香川）（香川県高松市）
- 9月30日－10月5日：徳島駅クレメント広場（徳島県徳島市）

（第3四半期 開催件数：26件）

- 10月1日－10月8日：真岡市信用組合本店（栃木県真岡市）
- 10月3日－10月13日：静岡文化芸術大学 西ギャラリー（静岡県浜松市）
- 10月3日－10月4日：川崎市教育委員会 高津市民会館（神奈川県横浜市）
- 10月9日－10月15日：真岡市市役所（栃木県真岡市）
- 10月12日：新潟・ラテンアメリカ協会（新潟県新潟市）
- 10月14日－10月24日：足利市生涯学習センター1階（栃木県足利市）
- 10月12日－10月27日：小松市役所エントランスホール（石川県小松市）
- 10月19日－10月26日：駒ヶ根市駅前 みなこいフェスタ会場（長野県駒ヶ根市）
- 10月24日－10月26日：神栖市民体育館（茨城県神栖市）
- 10月25日：新城市立新城中学校（愛知県新城市）
- 10月25日－10月26日：2008太田スポーツ・レクリエーション祭（群馬県太田市）
- 10月27日－11月7日：小松市国際交流協会事務局（石川県小松市）
- 10月30日－11月10日：磐田市役所（静岡県磐田市）
- 11月1日－11月15日：まちづくり協働センター6階国際交流プラザ（兵庫県三田市）
- 11月1日－11月23日：愛知川町びんてまりの館（滋賀県愛知郡）
- 11月2日：豊田市生涯学習センター保見交流館（愛知県豊田市）
- 11月7日－11月10日：小松市第一地区コミュニティーセンター（石川県小松市）
- 11月8日－11月9日：東浦町産業まつり会場（愛知県知多郡）
- 11月8日－11月13日：大阪市立中央図書館ギャラリー（大阪府大阪市）
- 11月8日－12月24日：愛媛県国際交流センター他2ヶ所（愛媛県松山市）
- 11月14日－11月20日：北國新聞赤羽ホール（石川県金沢市）
- 11月17日－11月21日：豊川市役所1階ロビー（愛知県豊川市）
- 11月22日－12月23日：佐川町立桜座（高知県高岡郡）
- 12月6日－12月7日：愛知県勤労会館 つるまいプラザ（愛知県名古屋市）
- 12月20日－12月21日：（財）大阪国際交流センター（大阪府大阪市）

2) 移住パネル製作及び外部貸出

日伯交流年関連のニーズへ対応するためにブラジル版パネルセット10枚を1セット増刷した。また、写真家渋谷敦志氏より提供されたパラ州トメアスー及びサンパウロ州アリアンサで撮影された画像データを素材に、20枚パネルセットを製作した。貸出先は群馬県大泉町、高島屋、岩手県 JICA デスク、ムッターランド（我孫子市）、平塚市、横浜市民ギャラリー、

こどもの城（東京都）、兵庫南文化村（米子市）、富山市国際交流協会、愛知県石浜西小学校、佐久市教育委員会、NHK名古屋放送局、仙台市国際交流協会およびJICA 各国内機関など。

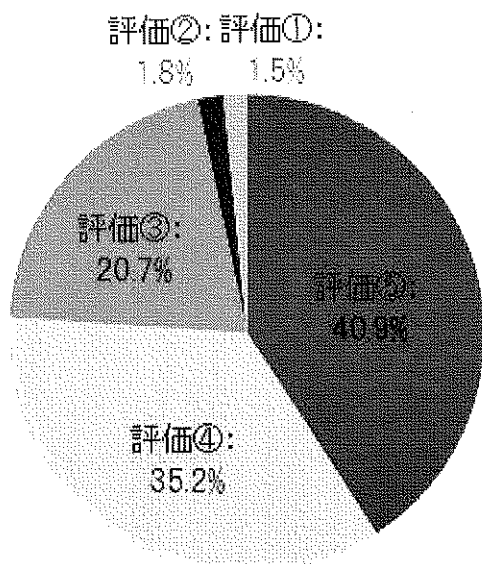
3) 各種照会対応

日伯交流年に関する外部からの各種照会対応を行なった（235件）。

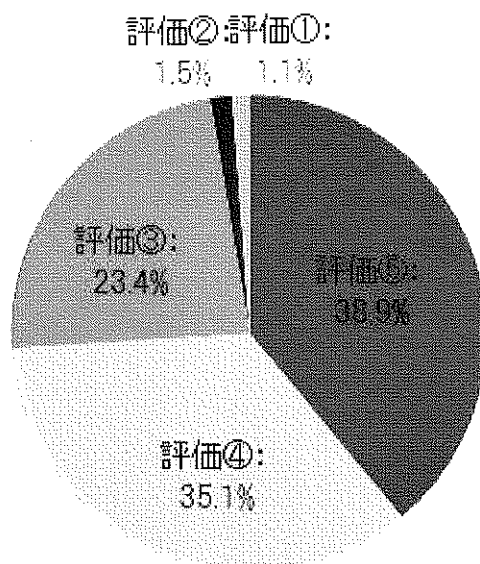
8. アンケート調査

4/26より常設展示入館者を対象に利用者アンケートを実施。設問は「展示内容について」「展示ガイドによる展示解説について」「受付での対応について」「海外移住資料館だよりの記事内容について」等を設定した。評価基準は「5：とてもよい」「4：よい」「3：ふつう」「2：あまりよくない」「1：よくない」の5段階とした。

【アンケート回答者全体】



【教育プログラム受講者】



回答総数は1,859件（うち、教育プログラム受講者分は871件。以下、（ ）内の数字参照）。5段階総合評価は、評価5：40.9%（38.9）、評価4：35.2%（35.1%）、評価3：20.7%（23.4%）、評価2：1.8%（1.5%）、評価1：1.5%（1.1%）となった。

9. その他

競争の導入による公共サービスの改革に関する法律(平成18年法律第51号)及び公共サービス改革基本方針(平成19年12月24日閣議決定)に基づき、『海外移住資料館』の管理・運営業務の民間競争入札を実施した。官民競争入札等監理委員会における審議、パブリックコメントを踏まえ、民間競争入札実施要項(委託業務内容、入札手続き等を網羅した書類)を作成し、以下のスケジュールで総合評価落札方式による入札を行った。

平成20年10月15日 入札公告
平成20年10月23日 業務説明会
平成20年11月4日 競争参加資格確認書類提出期限
平成20年11月18日 技術提案書提出期限
平成20年11月26日 プレゼンテーション
平成20年12月25日 入札会

入札公告の結果、2者から技術提案書が提出され、入札の結果、「海外移住資料館」の管理・運営業務を財団法人海外日系人協会に業務委託することとした(契約期間は平成21年3月16日から平成24年3月31日)。

10. 各種実績 ※別紙一覽

常設展示スペース	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
入館者数	4,425	6,415	3,931	1,997	2,220	4,137	3,421	3,885	2,685	1,712	2,158	2,117	39,103
(前年同比)	158%	157%	144%	83%	96%	191%	107%	152%	149%	115%	128%	75%	130%
一般	3,447	5,115	3,314	1,556	1,877	3,789	2,884	2,912	1,953	1,383	1,687	1,993	31,910
学校関係	978	1,300	617	441	343	348	537	973	732	329	471	124	7,193
15歳未満	325	901	452	172	387	329	166	817	483	319	433	112	4,896
15歳以上	4,100	5,514	3,479	1,825	1,833	3,808	3,255	3,068	2,202	1,393	1,725	2,005	34,207
個人	3,040	4,715	3,000	1,444	1,673	3,638	2,512	2,386	1,839	1,280	1,607	1,673	28,807
団体	1,385	1,700	931	553	547	499	909	1,499	846	432	551	444	10,296
	※開館からの累計： 169,977												

教育プログラム実施	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
実施件数	3	12	9	10	10	4	9	9	7	4	8	2	87
実施対象人数	166	508	310	358	356	81	287	645	574	65	380	23	3,753

照会対応	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
対応件数	90	60	85	73	73	75	56	57	35	34	43	28	709
JICA	12	7	10	15	4	3	1	1	1	3	2	2	61
教育機関	6	8	8	6	8	10	9	8	8	5	3	3	82
国内団体	12	23	16	23	10	10	14	11	5	6	6	6	142
個人	22	10	27	9	28	25	22	20	8	14	11	9	205
自治体	8	4	8	11	13	12	7	6	2	2	3	0	76
制作会社	6	2	5	6	6	13	2	7	4	3	17	7	78
マスコミ	23	6	11	3	4	2	1	4	6	1	0	1	62
国外団体	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	3

※平成19年10月より集計基準変更

図書資料室(海外移住)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
入室者数	235	229	210	184	181	202	193	146	161	235	152	199	2,337
(前年同比)	290%	188%	172%	127%	119%	147%	119%	88%	83%	113%	84%	86%	122%
一般	123	113	112	93	87	88	137	92	95	91	70	79	1,180
マスコミ等	7	3	6	1	2	3	0	3	1	0	6	0	32
JICA関係(業務)	89	91	72	82	81	78	52	45	62	65	61	58	836
JICA関係(研修)	16	22	20	8	21	33	4	6	3	79	15	62	289

資料受入件数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
資料受入件数	37	1	58	34	52	58	100	553	389	79	1,684	123	3,168
(うち取得)	28	0	45	29	38	21	74	503	366	47	96	34	1,281
(うち購入)	0	1	2	0	2	4	1	32	0	0	1,580	49	1,671
(うち寄贈)	9	0	11	5	12	33	25	18	23	32	8	40	216
所蔵登録総件数	33,786	33,787	33,845	33,879	33,931	34,010	34,089	34,642	35,044	35,139	36,823	36,946	

移住申込書整理	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
ファイル解体	327	140	276	271	33	395	88	179	110	83	768	533	3,203
データシート作成	350	140	276	271	33	395	88	179	110	83	768	533	3,226
挿入作業	350	140	276	271	33	395	88	179	110	83	768	533	3,226
データシート記入	216	196	297	138	281	327	91	204	145	112	725	446	3,178
スキャン(件数)	339	185	216	168	510	747	592	236	67	1,036	549	1,225	5,870
スキャン(画像ファイル数)	3,616	1,766	3,191	1,935	4,253	3,776	3,895	1,681	1,299	3,918	4,524	4,167	38,021

Webページアクセス	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
Visits(訪問者数)	11,460	13,132	13,507	12,183	11,223	9,913	10,681	10,140	10,717	10,983	9,683	8,684	132,306
(前年同比)	127%	133%	131%	109%	117%	121%	111%	109%	136%	126%	106%	85%	117%
Pages(利用数)	25,278	28,724	29,072	26,826	27,513	26,248	27,245	24,573	24,770	26,358	25,979	23,700	316,286
Files(情報提供数)	87,737	98,394	103,107	97,901	92,232	91,044	97,860	92,665	89,163	88,938	88,227	81,982	1,109,250

情報検索アクセス・登録数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
Visits(訪問者数)	-	-	848	755	789	899	985	920	847	925	910	995	8,873
(前年同比)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
検索件数	-	-	1,869	1,284	2,043	2,138	1,399	1,170	2,163	1,497	1,286	1,651	16,500
(前年同比)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
情報検索システム登録総数	-	-	33,804	75	54	58	100	553	389	79	1,684	2	36,798
情報検索システム図書登録数	-	-	31,956	74	54	47	100	553	389	49	1,674	0	34,896
情報検索システム標本登録数	-	-	1,848	1	0	11	0	0	0	30	10	2	1,902

※6月データ移行完了

JICA 横浜 海外移住資料館 館報
平成 20 年度

発 行：国際協力機構横浜国際センター
Japanese Overseas Migration Museum
海外移住資料館

発行年月：2009 年 6 月

問い合わせ先

JICA 横浜 海外移住資料館
〒231-0001 神奈川県横浜市中区新港 2-3-1
Tel 045-663-3257 / Fax 045-211-1781
Web:<http://www.jomm.jp> E-mail:info@jomm.jp



